

血中ペプチドマーカーで現在のがんのリスクが分かる

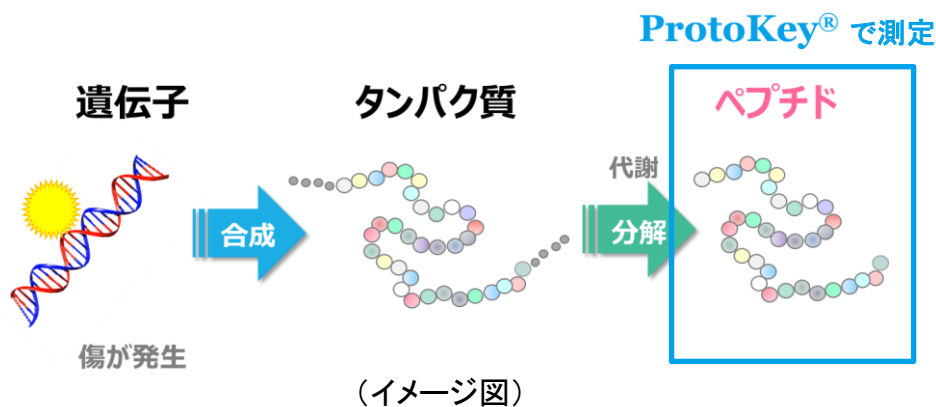
ProtoKey[®] すい臓がんリスク検査

< ProtoKey[®] (プロトキー) すい臓がんリスク検査 とは？ >

すい臓がんで特異的に増減する血中ペプチド量を測定することで、すい臓がんのリスクを調べる血液検査です。採血のみで簡単に一次リスク判定が実施できるため、すい臓がんの予防・早期発見にご活用いただくことが可能です。

◆がん発生時の体内変化

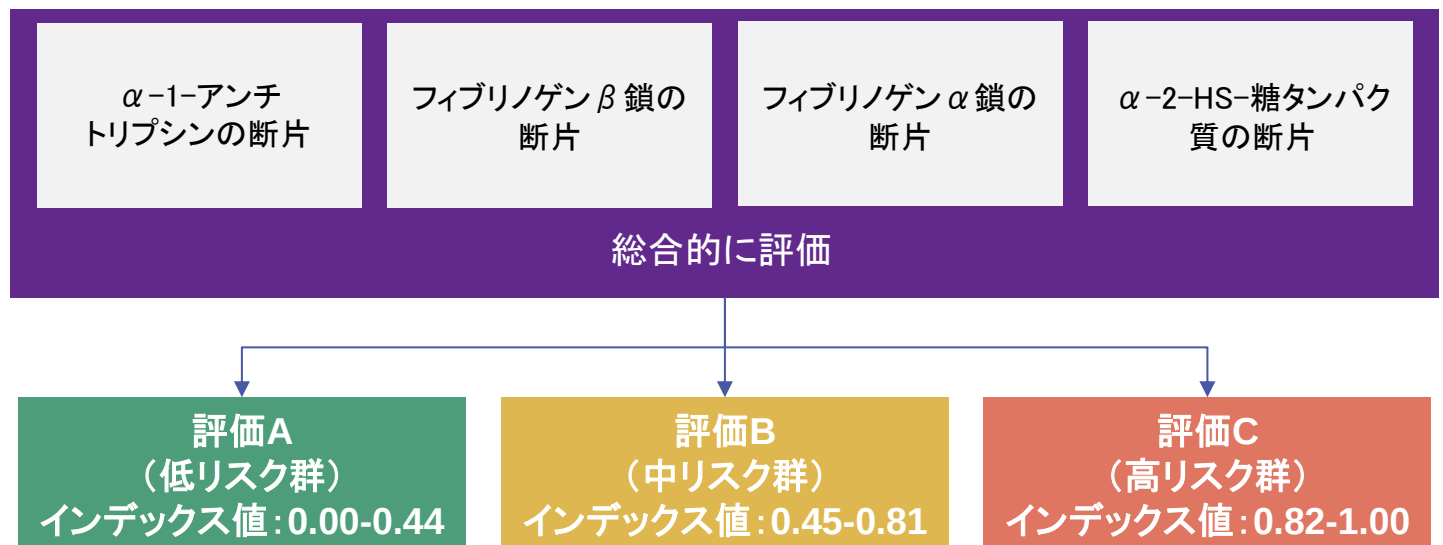
体内で変化した酵素やタンパク質により、がんに近い状態特有のペプチド断片が切り離されると考えられます。



< ProtoKey[®] すい臓がんリスク検査の特徴 >

検査では4種類のペプチドを測定し、「がんに近い状態」かをリスク評価として算出いたします。リスクは評価A(低リスク群)、B(中リスク群)、C(高リスク群)の三段階で判定します。富山大学の研究成果からは感度89.3%、特異度81.7%と、高い精度を示すことが報告されています。

◆すい臓がんのバイオマーカーペプチド



ProtoKey[®] すい臓がんリスク検査をリスクチェックに用いることで
すい臓がんの早期発見・早期治療の可能性を高めることが可能です。

<報告レポートイメージ>

A3見開きの報告書を作成させていただきます。
報告書にはすい臓がんを予防するためのヒントや測定物についての解説も記載しております。
また、評価C(高リスク群)の方には必要に応じて精密検査の実施を推奨しております。

ProtoKey® すい臓がんリスク検査報告書

氏名 サンプル タロウ 様

性別 男性

年齢 47歳

受診日 2024/4/1

カルテID 123456789

今回のProtoKey®すい臓がんリスク検査の結果

血中ペプチド濃度の解析結果より、リスクインデックス値は**0.01**であなたの結果値と同等の方は **評価A(低リスク群)** に分類されます。

結果コメント

今回の検査結果ではリスクインデックスの値から、評価A(低リスク群)に分類されました。
すい臓がんは症状に気づきにくいがんともいわれています。今後も定期的に検査を受け、すい臓がんの早期発見・予防に努めましょう。また、食生活、喫煙、飲酒などの生活習慣の乱れにも注意しましょう。

(各)リスクの分類について

評価A
(低リスク群)
リスクインデックス:0.00-0.44

リスク因子を避けて、健康的な生活習慣を心がけましょう。
また、リスク管理のためがん検診や本検査の継続的な受検をおすすめします。
*「低リスク」群であっても疾患の発症可能性が否定されるものではありません。

評価B
(中リスク群)
リスクインデックス:0.45-0.81

喫煙習慣や肥満といったリスク因子をお持ちの方は、生活習慣を見直し、健康的な生活習慣を心がけましょう。
また、リスク管理のためがん検診や本検査の定期的な受検をおすすめします。
※1年に1度程度

評価C
(高リスク群)
リスクインデックス:0.82-1.00

医療機関とも相談の上、専門医の受診をご検討ください。
必要に応じて、すい臓の精密検査(右ページ参照)の実施も推奨します。

※他検査の結果も踏まえ、必要に応じて専門医の受診や精密検査の実施をおすすめします。

すい臓がんのリスク因子について

すい臓がん発症の危険性を増加させるリスク因子がいくつか報告されています。
予防の第一歩として生活習慣の改善を心がけましょう。

糖尿病

すい臓がん患者の25%以上で糖尿病の既往歴があったことが報告されています。
そのため、糖尿病はすい臓がんのリスク因子の一つと考えられています。

喫煙

喫煙はすい臓がんの発症危険度を2〜3倍に増加させることが報告されています。
また、動脈硬化やその他のがんのリスク因子としても考えられています。

アルコール

アルコールを1日3杯以上摂取する方は、すい臓がんのリスクが高かったことが報告されています。
※日本酒175g相当
1杯＝エタノール12.5g

肥満

肥満はすい臓がんのリスクを増加させることが報告されています。
BMI(肥満指数)が25以上の方では、それ以下の人と比べてすい臓がんを発症するリスクが2倍ほど高まるといわれています。

すい臓がんに関する精密検査について

すい臓がんは自覚症状が少ないことで知られています。
必要に応じて専門外来の受診や精密検査の実施をおすすめします。(下記は実施例です。)

超音波内視鏡

超音波装置を先端につけた内視鏡を用いて行う検査です。体表から腹部超音波検査とは違い、対象となる部位に近い位置で検査を行うことが可能です。

CT検査

X線コンピュータを使用し、すい臓の断像を撮影する検査です。断像の大きさや位置、広がりも精密に観察できます。

MRI(MRCP)

強力な磁気を用いて、断層写真を撮影する検査です。MRCP(MR胆管造影撮影)では、すい臓の中心を通る「膵管」や、胆汁を流す「胆管」を中心に検査することが可能です。

※ProtoKey®すい臓がんリスク検査は医師の診断を代替する検査ではありません。
※すい臓がんの診断は、その他の診断診断の検査結果や精密検査の結果をもとに総合的に判断されるものです。

検査項目名	ProtoKey® (プロトキー) すい臓がんリスク検査
検体量	血清 1.0 mL
容器	一般生化学採血管
保存(安定性)	血清冷凍
報告期間	検体受領から3〜4週間
測定・解析機関	株式会社プロトセラ
検査方法	質量分析法
備考	ProtoKey® (プロトキー) すい臓がんリスク検査はすい臓がんのリスクを判定する保険未収載の検査です。 ProtoKey® (プロトキー) すい臓がんリスク検査の結果のみですい臓がんの有無を判定する検査ではありません。他検査の結果と併せて今後の検査・治療方針の検討にお役立て頂くこととお勧めいたします。

関連文献

- Tanaka et al., A new rapid and comprehensive peptidome analysis by one-step direct transfer technology for 1-D electrophoresis/MALDI mass spectrometry Biochem. Biophys.Res. Commun. 2009, DOI: 10.1016/j.bbrc.2008.12.016
- Uchiyama et al., Peptidomic Analysis via One-Step Direct Transfer Technology for Colorectal Cancer Biomarker Discovery J Proteomics Bioinform. 2015, S5 DOI: 10.4172/jpb.S5-005

PreMedica

株式会社プリメディカ
〒105-0011 東京都港区芝公園2-3-3 寺田ビル5F
TEL:03-5776-1105 FAX:03-5776-1106 <https://www.premedica.co.jp>